



第6回「縄文の女神」ペーパークラフトデザインコンテスト 審査結果

標記コンテストは舟形町・最上町・大蔵村の3町村による連携事業で、国宝「縄文の女神」のペーパークラフト制作を通じ最上地域の縄文文化に対する関心を高め、郷土愛醸成を図ることを主な目的としています。今年度も計100点を超える作品が寄せられ、厳正な選考の結果、各部門ごとに最優秀賞1点、優秀賞2点、審査委員長特別賞3点、縄文賞3点、入選数点が決定、最も応募作品の多かった最上町からは以下5名の方々が受賞されました。

●小学生部門

- 縄文賞 二戸涼平さん（向町小2年）「縄文の神様」
入選 岸 千洋さん（向町小5年）「ゆかたすがたの縄文の女神」
海藤郁吹さん（向町小4年）「古代の女神」
海藤凧咲さん（向町小2年）「フォーキーな女神」



ご応募いただきありがとうございます！

●一般部門 縄文賞 佐藤富士子さん「彩りの訪れ」

また、今回は上記コンテスト開催に併せて、過去歴代最優秀作品（第1回～第5回）の中から部門ごとに1番を決定するためのグランプリ投票も行われ、中学生部門では当町出身である後藤聖乃さんの過去作品「舟っ子の森の女神」（当時 最上中3年）が選ばれました。受賞された皆様、大変おめでとうございます。



最上町芸文協 加盟団体を募集します！



現在、最上町芸術文化団体協議会（芸文協）には計23団体が加盟しています。活動部門は、写真・華道・手芸・音楽・民俗芸能・茶道など多岐にわたり、当町の芸術文化活動の輪をさらに広げるべく、新規加盟団体を募集します。町内で芸術文化活動に取り組まれている方々は是非ご検討いただき、共に最上町を盛り上げましょう。

○年会費 1団体 2,000円

○対象団体 文学、音楽、美術、演劇映画、舞踊、書道、華道、茶道、民俗芸能、文化財、写真、詩吟など

○加盟後の特典

- ・芸文祭（10月～11月）への参加が可能となり、展示や発表に対して町が全面的にサポートします
- ・最上町中央公民館使用料減免が受けられます（適用後料金は、**全室一律220円**に）
- ・芸文協が主催する町外研修事業に参加でき、他団体との交流を深めることができます
- ・各団体が独自に主催する発表会等に芸文協として後援（名義使用等）します

○加盟に関するお問い合わせやご相談

最上町中央公民館 生涯学習室（☎43-2350）まで、まずはお気軽にご連絡ください！



～令和7年度に加盟された新規団体（2団体）～

華道小原流 最上町教室（華道）

佐藤洋子バレエスクール（舞踊）



明治時代後期に流祖・小原雲心によって始められ、壺や花瓶ではなく平たい器（水盤）に花を盛るように生ける形式が特徴。創流130年の伝統を守り、現在5名の仲間と共に日々稽古に励みます。



向町教室では、毎週水曜・金曜日に最上町健康センターにて、未就学児から中学生まで幅広い年齢層がレッスンに励んでいます。今年は十数年ぶりに芸文祭舞台発表に復帰され、演目「パリの喜び」をコミカルに演じました。

中央公民館年末年始閉館のお知らせ

《中央公民館の閉館期間》

令和7年12月28日（日）
～ 令和8年1月3日（土）
※閉館に伴い、図書室も閉室となります
ので、ご注意ください。

《地区公民館の窓口業務休業期間》

令和7年12月28日（日）
～ 令和8年1月3日（土）
※大堀・富澤地区公民館は窓口業務が休業

『紙門松を配布しております!!』

毎年、中央公民館から町内すべてのご家庭と分館に紙門松を配布しております。例年通り1軒一對（2枚）となっております。

門松はお正月に各家庭にやってくる、家内安全・五穀豊穡をもたらす歳神様が、迷うことなく、おいでになるよう目印になるもの、おいでになった歳神様の依代になるものであるとも言われています。

令和8年度を皆様が心穏やかに迎えられるように、そして幸多き1年になりますように職員一同お祈り申し上げます。

赤倉温泉スキー場

大会・イベント

赤倉温泉スキー場 大会情報

1月13日・14日 県中学・高校スキー大会
1月16日～18日 県総合スキー大会
2月7日・8日 最上少年スキー大会
2月11日 N-POINT山形県大会
3月1日 N-POINTモガンバカップ

満喫パック

（一日リフト券+食事券+赤倉温泉日帰り入浴券付き）
4,600円

（こども3,600円/シニア4,100円）

チケットの取り扱いは：

赤倉温泉スキー場リフト券売り場

☆新しい本が続々入荷中です☆

中央公民館図書室新刊情報

《第1回創元ミステリ短編賞受賞》

※「朝からブルマンの男」
水見はがね著（ミステリ・フロンティア）

《第59回新風賞特別賞受賞》

※「赤と青のガウン」 彬子女王著（PHP研究所）
※「サイレントシンガー」 小川洋子著
（文藝春秋）

※「あこのころの僕は」 小池水音著（集英社）

※「アフターブルー」 朝宮夕著（講談社）

※「彼女が探偵でなければ」 逸木裕著（KADOKAWA）

※「クロエとオオエ」 有川ひろ著（講談社）

※「秘仏の扉」 永井紗耶子著（文藝春秋）

※「あなたの四月を知らないから」 青山エリ著
（朝日新聞出版）

※「熟柿」 佐藤正午著（KADOKAWA）

※「一橋桐子（79）の相談日記」
原田ひ香著（徳間書店）

※「さらば！ 店長がバカすぎて」
早見和真著（角川春樹事務所）

※「最初の星は最後の家のようだ」
太田愛著（光分社）

※「残光そこにありて」
佐藤雫著（中央公論新社）



「翠雨の人」 （新潮社）

伊予原 新著

直木賞受賞作家による構想10年、渾身の長編小説！
女性科学者の生涯を描いた作品。

「雨は、なぜ降るのだろう。」
少女時代、素朴な疑問を抱いた
ことから、女性が教育を受ける
機会に恵まれない時代に科学の
道を志した猿渡勝子。

戦時下で科学と戦争の関係を
問い続けた勝子は、戦後放射能
汚染の実態究明に打ち込んでいく。



科学の目的、それは人類を幸せにすること。